

しんじゅ 新樹

前橋市のホームページからでもご覧になれます

「新樹」=水と緑のまちをイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようにという願いを込めました。

◆特集◆ 家族と食卓 ～昔・今～…………… P.2～4

食生活の男女共同参画って？ 群馬大学教育学部 高橋久仁子教授…………… P.5



・おじやまインタビュー…………… P.6,7

機械オペレーター きぐれちはる 木暮千春さん

介護福祉士 がねこけいじ 金子恵司さん

・男女共同参画室だより…………… P.8

・編集後記



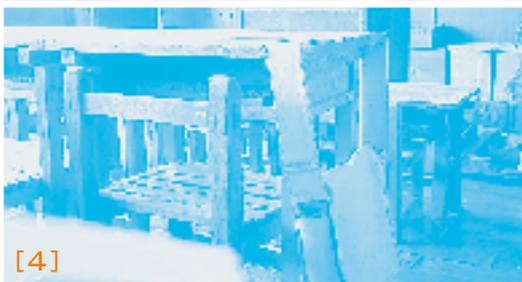
[1]



[2]



[3] 氷冷蔵庫



[4]



[5]



[6]



[7] 手回し洗濯機



[8]

* 男女共同参画

「参加」は仲間になることで、「参画」は方針決定の場に加わることです。

女性と男性が、社会の対等なパートナーとして、社会のあらゆる分野に共に参画し、喜びも責任も分かち合う社会を目指しましょう。

家族と食卓 ～昔・今～

最近では、男性も台所に立つシーンがたくさん見られるようになってきました。私たちを取り巻く環境がどのように変わってきたか、「食卓」を通して男女共同参画のあゆみを振り返ってみたいと思います。
変わってきたこと、変わらないもの、そして次世代へ正しくつなげていくために…
みんなで、一緒に考えてみませんか。

「三丁目の夕日」を感じるノスタルジー

伝統的な家庭の食卓のイメージの原点（戦後～1950年代）

ある養蚕農家の風景

家族は三世代と叔母が同居する7人家族でした。

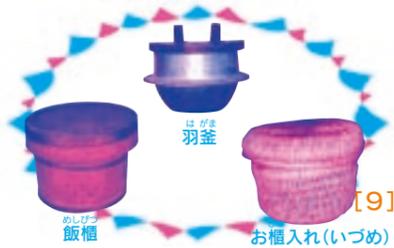
食事の支度は主に母親と祖母の仕事で、父親は蚕や家畜の世話をし、子どもたちは手押しポンプから汲んだ水をお風呂や台所の水がめに運んだり、薪割りをしました。

台所は土間にあり、ご飯は、「羽釜」に米を入れ、かまどで炊きました。炊き終わると、ご飯を「飯櫃」に移し、寒い時期は冷めないように「お櫃入れ」に入れました。

食事ができると全員が集まって長方形のちゃぶ台で食卓を囲みました。

食卓の席は決まっています、母親と祖母は、給仕がしやすいように台所のある北側に、父親は南側の席に座りました。

醤油や味噌は、地域の男性達が農



作業の合間に共同作業で、当番を決めて10日くらいかけて作っていました。野菜、米、うどん（おきりこみ）も自家製で、野菜の煮物や煮込みうどんが夕食の定番でした。

ほとんどが自家製の食材でしたが、買い物をする時は母親が買物かごを持ち、近所の個人商店を歩いてまわりました。豆腐や納豆は行商が売りに来ました。

冷蔵庫がまだなかったので、鮮魚や肉などは滅多に食卓に並びませんでした。

洗濯、食事作り、掃除など、何を

するにも手間のかかる時代でした。養蚕や農作業をしながら、家事全般をこなしていた女性は、とても負担が大きく、大変でした。

ちゃぶ台のある暮らし (市街地Tさんのちゃぶ台の思い出)



茶の間にはちゃぶ台と家族の団楽がありました。ちゃぶ台は折りたたむため、狭い部屋を活用するのにとても便利でした。

コラム★あの頃の我が家

幼かった私は、「どうしてお父さんのおかずは僕たちのより多いの?」と、日頃の疑問を口にしました。1950年代の話です。

我が家では台所に続く板の間に、薄い敷物を敷いただけの部屋で、父が席に着くまで正座して待ち続けるのです。席順も、風呂の順番も父が最初、母が最後と決まっていました。「男は台所に入るもんじゃない!」と父から叱責されて育ちました。でも、どういう風の吹き回しか、一度だけ父が肉を焼いて食べさせてくれたことがあります。

つい先日、兄から電話があり、「あの時の味を覚えているか。どうしても出せないんだよ。」と聞いてきました。実は、私も何度も再現を試みましたが、ダメでした。生前に調理法を聞いておけば…と悔やまれるこの頃です。

(橋本)

この時代の出来事 『流行語等』

- 1945年 改正衆議院議員選挙法公布(婦人参政権の付与)
- 1946年 日本国憲法公布
衆議院議員選挙で女性議員39人誕生
- 1947年 改正民法公布(家父長制廃止)
教育基本法及び学校教育法の制定(教育の機会均等を定める)
- 1949年 第1回婦人週間
- 1955年 電気釜製品化
- 1956年 売春防止法公布
- 1958年 インスタントラーメン発売
東京タワー完成
- 1950年代後半 『三種の神器』
(電気洗濯機、電気冷蔵庫、白黒テレビ)

アメリカンスタイルへの憧れ

高度経済成長で大きく変わったダイニングという形（1960年代～1990年代）

この時代の出来事 『流行語等』

- 1960年 初の女性国務大臣誕生(中山マサ氏)
所得倍増計画(池田内閣)
『家付き、カー付き、婆抜き』
- 1963年 『OL』『カギっ子』
- 1964年 母子福祉法施行、東京オリンピック開催
- 1960年代半ば 『新三種の神器』
(カラーテレビ、クーラー、自動車)
- 1969年 ファミレス日本初出店
- 1970年 ファーストフード日本初出店
- 1971年 コンビニ初出店(1974年説もある)
- 1973年 石油危機(第一次オイルショック)
- 1974年 狂乱物価
- 1975年 国際婦人年
インスタントラーメンCM『私作る人ほく食べる人』(性差別として放送中止)
- 1984年 国籍法及び戸籍法改正(父母両系血統主義の採用、配偶者の帰化条件の男女同一化)
- 1985年 男女雇用機会均等法成立、女子差別撤廃条約批准
- 1986年 『亭主元気で留守がいい』
- 1989年 家庭科教育の教育課程が男女共通履修となる
『セクハラ』『オバタリアン』
- 1990年 『オヤジギャル』『アッシーくん』『リストラ』
- 1991年 育児休業法成立

高度成長期で農山村を出て集団就職する人が増え、都市が発達していきました。両親と子どもだけという、核家族の家庭が増え、ダイニングテーブルで食事を摂るという、新しいスタイルが見られるようになりました。

新しいスタイルの食卓



洋風の生活様式の普及によりテーブルと椅子の食卓へと変わり、ダイニングキッチンが家庭のメインステージとなりました。

また、産業、経済が発展し、電気炊飯器や洗濯機、掃除機などの家電製品の改良、普及により、家事労働は軽減されていきました。

食の多様化も進み、加工食品、輸入食品の流通量も増える一方、ファミリーレストランなどが増え、外食産業も発展しました。また、総合的に食品を扱うスーパーマーケットができ、車と冷蔵庫の普及でまとめ買いをするようになったり、レジ袋の利用が増え、買物かごを持ち歩かなくなるなどの変化もありました。

この頃、男性は「仕事人間」「企業戦士」として企業のために活躍することが期待され、女性は家事を担いながら子育てを行い、役割を分担することで高度成長の繁栄期を築いていきました。ちなみに1972年では、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という固定的性別役割分担意識に賛成する人が男女共に8割を超えていました。

コラム★アメリカ的生活への憧れ

1950年代生まれの私が子どもの時、食事は四角い座卓でとっていた。幼稚園の頃、家に来た白黒テレビは、アメリカのドラマが多く流れ、「コンバット」や「ララミー牧場」の銃撃シーンに熱中した。それ以上に憧れだったのが、「奥さまは魔女」、「ルート66」で写されるアメリカの家庭生活だった。アメリカでは台所でご飯を食べているというのが驚きだった。

当時の実家の台所は、土間と板の間が半々で、家の暗い奥の方にあつた。そこは、祖母と母が何かしている秘密めいたところで、何か子どもが入ってはいけない雰囲気があった。ところがアメリカの家は、全てが丸見えで、家族全員で皿を運んだり、大きな冷蔵庫から牛乳を取り出したりしている。そこは明るく、楽しい所に見えた。

小学校の頃電気冷蔵庫が入り、食事にコロツケやビーフシチューが登場した。でも食べるのは畳の上の座卓で、母親がお盆にのせた料理を運んで並べた。ダイニングキッチンという言葉は知らなかったが、いつかはテーブルを置いた大きな明るい台所で食事するのが夢だった。

(高坂)



飽食から個食まで広がる食の自由

食卓の多様化と男女の役割の変化（1990年代末～現在）

冷蔵庫の冷凍機能が充実し、スーパーにはレトルト食品や冷凍食品も増え、電子レンジが普及すると、さらに家事の時間が短縮できるようになりました。

また、車での買物が普通になり、ショッピングセンターができた、コンビニの存在が身近になり、軽食やお弁当などを24時間手軽に買えるようになりました。

食生活が豊かになり、グルメブーム、「飽食」の時代と言われながら、一方では栄養障害、生活習慣病など、健康面での問題も生じています。

また、少子高齢化を背景に、家族構成も変化してきました。家族のライフスタイルの変化に伴い、「個食」や「孤食」など、食卓のスタイルも多様化しています。

男の料理教室



料理の楽しさや味わう喜びを知ることができる、男性の料理教室が人気を集めています。

芳賀公民館で活動する「男の料理クラブ」

家族で作る食卓



コミュニケーションスペースとして話題のアイランド型キッチン。夫婦や親子など複数の人数で調理しやすくなっています。

男女共同参画社会をめざして

国際化、少子高齢化、情報化などの進展により、社会経済情勢が急激に変化しています。

ライフスタイルに関する意識や価値観も多様化し、男女を取り巻く環境も大きく変化しています。

将来に向かって豊かで活力ある社会を築いていくためには、性別によって生き方や役割を固定的に決めるのではなく、お互いを思いやり、性別に関わらずに個性を輝かせていきいきと暮らすことが出来る男女共同参画社会の形成がますます重要となっています。

コラム★家庭での食事とコンビニと

学生生活を送っているうちに、スーパーよりも気軽に立ち寄れるコンビニが身近な存在になっていました。今や外出しているときの食事は、コンビニに頼ることが大半です。

一応は健康も気遣って、サラダや野菜ジュースを随時メニューに含めるようにしています。一回の食事を500円以内に抑えることで、できるだけエンゲル係数と体重を増やさずに済むよう心がけています。

家での食事は、時間が合えば家族全員でテーブルを囲んで一緒に食べています。食事の時間を家族で共有し、そこで他愛ない会話が交わされれば素敵なことですね。大事なことは、一緒に食事をするのではなく、一緒に食事をしているときに他愛ない会話が交わされる程度の親と関係をお互いに築いておくことなのかもしれません。（法橋）

この時代の出来事

- 1995年 阪神大震災 第4回世界女性会議(北京)
- 1999年 男女共同参画社会基本法成立
前橋市男女共同参画情報誌「新樹」創刊
- 2000年 ストーカー行為等の規制等に関する法律成立
- 2001年 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律成立
- 2003年 まえばし男女共同参画推進条例制定
- 2004年 前橋市男女共同参画基本計画
「まえばしWindプラン2004」策定
- 2007年 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針」の策定

食生活における男女共同参画とは？

群馬大学教育学部、高橋久仁子教授にお聞きしました。

*「食のジェンダー問題」とは何ですか？

男・女という性で二分された意識の代表として、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業がありますが、今や「男は仕事、女は仕事も家庭も」になろうとしています。

食のジェンダー問題とは、「食生活に関わることは、女性の役割」という、未だに根強く残る社会通念の事を言います。また、妻や母が食事作りを完璧にこなしてしまうと、他の人の食生活権を奪ってしまうということにもなります。

*確かに食事作りなどの家事は女性が中心の家庭が多いですね。

根強く残る社会通念ですから、それがジェンダー問題と気付かずに「自分が家族の健康を守らなければ」と、大変な思いをしている女性も多いのではないのでしょうか。

女性、特に母親が家事全般をこなしてしまうと、子どもや父親は、一人になった時に何も出来ない…なんていうことになりかねません。

家族の健康は、誰か一人に任せてしまうのではなく、まずは自分自身、そして、家族みんなで考えるべき問題だと思います。

*昔は子どもも大人も家の仕事をしていたように思いますが…

かつての前橋市では、養蚕や農業の盛んな家庭が多く、男性も女性も働いていました。共働き社会の先取りともいえますね。

家電製品が発達するまでは、手間や時間がかかり、家事労働は大変な負担となっていました。しかし、家族で



協力をして子守りや水汲み、薪割りなど、生きて行く為に一人ひとりが、何らかの役割分担を持っていました。

現代の家庭でも、食事作りなどの家事を、お母さん(女性)任せにしないで、家族の一人ひとりが何らかの役割を持って協力することが大切です。

*最近、団塊の世代の間では、男性向けの料理教室なども話題を呼んでいるそうですね。

以前は「男子厨房に入らず、台所は女の城」と言われました。今はそうではなく、「みんな、厨房に入ろう。台所は家族の城」にすべき時代です。

用意された食事を食べるだけの人を台所に誘いましょう。調理は刃物と火と水の力を総動員して食材を食べられる状態に仕上げることです。実際に台所に立ち、手を動かし、五感を働かせながらの食事作りを経験することは、「食べるだけ」では得られない多くの事を学ぶことができます。

食事の支度とは大変なものだと認識するもよし、料理は楽しいものであると感じるもよし、です。

*たしかに自分で調理をしている時の男性やお子さんの表情はとていいきいきと見えますよね。

そうですね。家族みんなで食事を作り、食べ、片付ける事も、大事なコミュニケーションの一つではないでしょうか。そして、このことが食生活の男女共同参画に結びつくことになり、一人ひとりが自立への第一歩を踏み出せるのではないかと考えます。健康を考え、食生活に責任を持つのは自分自身だということを忘れてはいけません。

【ハレの日食卓症候群

毎日が“ハレの日”になっていませんか？



食卓の見栄えを気にしすぎるあまり、毎日が“ハレの日”のような豪華な食卓になっていませんか？

豪華な食卓は特別な時だけでいいのです。動物性食品を何品も食べるのは摂取しすぎです。

毎日毎日、たくさんのメニューを難しく考えて負担になってしまわないように、日々の食卓はシンプルにしてみてもいいのではないでしょうか。

一日に必要な摂取量を元に、「ご飯、みそ汁、おかず」を基本に考えましょう。

※ハレの日=おめでたい日



【一汁三菜メニュー】

- 主食：ご飯
- 汁物：わかめ、麩、大根のみそ汁
- 漬物：きゃべつときゅうりの浅漬け
- 主菜：挽肉、にんじん、えのきの卵とじ
- 副菜：大根とこんにゃくの煮物

夏休み子ども記者はこんな日程でした。

1日目 7/23

男の仕事、女の仕事について考えたり、どんな質問をするか話し合いました。



2日目 7/25

機械オペレーターさんと介護福祉士さんの取材をしました。



3日目 7/30

インタビューの原稿の修正や、記事のレイアウトを協力して考えました。



子ども記者のみなさん、3日間お疲れ様でした!



男性ばかりの職場で周りの人の様子はどうでしたか?

最初は何も分からずに入りましたが、会社の中にそれまで女性がいなかったのが、周りの人はとても優しく、親切にしてくれました。

この職業になろうと思ったのはいつ頃ですか?

子どもの頃は看護師になりたかったんです。でもこの仕事に興味を持って、仕事にしてみたいと思い、機械オペレーターを始めてから13年が経ちました。

この仕事で尊敬している人は誰ですか?

今はもう亡くなられた方なのですが、私に仕事を教えてくれた人です。「大丈夫だよ」と、声をかけて自信をつけてくれました。今でも思い出します。

夏休み子ども記者

木暮千春さん きぐれち はる カースチール株式会社 機械オペレーター

木暮さんは廃車をリサイクルするために部品を仕分けする仕事をしています。カースチールでは、年間3万台、一日に約100台もの車の処理をすることができます。木暮さんが乗る機械で車の解体業務をする女性は県内にはいないそうです。記者の皆さんは、「こんな大きな機械を女性が動かすの!？」と驚いていました。

仕事で一番大変な事は何ですか?

機械の調子が悪かったり、故障してしまった時は大変です。一日に終わらせなければならない台数が決まっているので、たくさんの車の処理がなかなか終わらない事があります。

でも、周りの人が助けてくれるので、協力して、大変な仕事もなんとか終わらせることができます。

仕事をしている時に危険な事はありますか?

機械の操縦席は安全のためにガラスで囲ってあるのですが、部品がそのガラスを突き破って足にあたってることがあります。

機械オペレーターの木暮さんが、女性なのに大きな機械を簡単そうに操作し、車の部品をわけているのがすごいと思いました。私も夢のために、いろいろ勉強してがんばりたいです。

5年 吉田夏子

私の将来の夢は、作家です。なぜかという、文章を書くのが好きだからです。子ども記者を体験して、職業には男も女も関係ないということがわかりました。私も夢に向かってがんばりたいです。

4年 吉田綾野

子ども記者を体験して話すことに自信ができました。学校で国語の時間に、なかなか手を挙げて発言できませんでしたが、子ども記者になって自信がついたので、2学期はがんばりたいです。

5年 養田百香

木暮さんがあんな大きな重機を運転するなんてすごいと思うし、日本で一番の技術を持っていると聞いた時は、すごい努力をしたんだなと思いました。

5年 小柏悠太

エアバックが破裂するときの音や、その後のくさい匂いが印象に残りました。

木暮さんは男性が多い機械オペレーターの中で、とてもがんばっていると思いました。

4年 湯澤周平

私の夢は作家です。でも、今回、子ども記者に参加させていただいて、職業を選ぶ枠が広がったと思います。とても早く過ぎた3日間だったけど、また楽しい思い出が出来ました。

6年 塚本咲実利

私は金子さんが言っていた、「お年寄り」と話す時は笑顔で!!」という言葉聞いて、ああそうだな、と思いました。私も今度落ちこんでいる友達を見たら笑顔で話しかけてあげたいと思います。

6年 塚本映利奈



私は障害者に関わる仕事につきたいです。なぜかという、障害のある子どもたちといっしょに体操をしていて、楽しいからです。

5年 山本みずほ

私は、子ども記者で女性の機械オペレーターがいるということにおどろきました。機械の使い方もとても上手でした。

来年も参加したいと思いました。

5年 須藤円香

木暮さんが、機械を操縦している所を見て、何をしても一生懸命努力しないとプロにはなれないんだなと思いました。私も努力できる人になりたいです。

5年 近藤晴乃



子ども記者を体験して、職業に男女の区別は関係ないとわかりました。男性の仕事が女性やっていたり、女性の仕事が男性やっていたりして、おどろきました。いい体験でした。

4年 木檜葉月

小さい時の夢がかうなうなんてすごいです。相手にとって何をしてあげればいいのかを考えることは、とっても難しいと思います。子ども記者ですごく勉強になったと思います。

5年 黒田藍依

市内の小学生12人が、3日間の活動を通して、性別に関わりなく自分らしい生き方が出来る、「男女共同参画社会」について学びました。

今まで男性の仕事、女性の仕事と思われてきた職業で活躍する人達を「子ども記者」がインタビューし、記事をまとめました。



金子恵司さん かねこ けいじ 特別養護老人ホーム恵風園 介護福祉士

金子さんは、自分の力では生活が困難なお年寄りの世話をしています。女性の仕事と思われていた介護士ですが、徐々に男性のスタッフも増えてきているそうです。恵風園では、歌や踊りなどでお年寄りを楽しませたり、お話をしたりと、小中学生の施設体験も行っているそうです。

小さい頃から介護士になりたかったのですか?

6歳上のおばが介護の仕事をしていて興味が出て、高校のときから介護士を目指し始めました。

なぜ介護士になりたかったのですか?

私が小さい頃、おじいちゃんとおばあちゃんに世話をしてもらっていたので、自分が大人になったら介護士になり、お年寄りの生活の手助けをしてあげたいと思ったからです。勉強は大変でしたか。どんな勉強をしましたか?

学校を卒業するまでの2年間で、15教科ほど勉強しました。お年寄

りの介護方法や、医療、食事、栄養などを勉強しました。

介護士になって周りの人の反応はどうでしたか?

介護士を目指そうと思ったのは今から12年前でした。その頃は男性の介護士は少なかったのが、周りの人や高校の先生には「大変な仕事を選んだね。頑張ってるね。」と言われました。



大変な事や辛い事はありますか?

介護には正解というものがないので、相手の気持ちを考えてあげる事が大事です。病気で自分の思った事が話せない人には、どんな介護をすれば喜ぶかと考える事が大変です。長く一緒に生活するうちに亡くなる方もいて、家族が亡くなるのと同じ位とても辛いです。

どんな事を思いながら仕事をしていますか?

相手にとって何をしてあげるのが一番良いのかを考えながら仕事をしています。お年寄りの言う事を何でも聞く事は介護ではありません。どうしたらその人らしい生活ができるかを考え、たとえ病気であっても、他の人と同じように生活してほしいと思っています。いつも笑顔でいてほしいと思うから、私も常に笑顔でいることを心がけています。

男女共同参画室だより

DVってなあに？

配偶者や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力をいいます。「殴る・蹴る」の身体的暴力だけでなく「怒鳴る・無視する」など精神的暴力や経済的暴力なども含まれます。また、DVは子どもにも深刻な影響を及ぼします。

被害者は、多くの場合女性です。女性に対する暴力は、女性を男性に比べて従属的な状況に追い込むものであって、その背景には、家庭や職場など、社会における男女の固定的な役割分担、経済力の格差、上下関係など、男女が置かれている状況や過去からの女性差別の意識の残存があるとされています。



相談室からのお知らせ

配偶者などからの暴力、セクハラ等でお悩みの方、一人で悩まないでお気軽にご相談ください。

電話

027-898-6520

相談時間 月～金 8:30～17:15

場所 前橋市本町一丁目5-2
職員研修会館2F
男女共同参画相談室

男女共同参画セミナー 開催のご案内

平成21年2月1日(日) 午後1時開場予定

会場：前橋テルサ ホール

テーマ：「一緒に笑いたい あなたと
～今、そして未来～」

入場無料

※詳細は広報まえばしでお知らせする予定です。

講師



広瀬久美子さん
(元NHKアナウンサー)



林家花丸さん
(落語家)

編集後記

今年度は2名の編集委員が交替になりました。新しい編集委員の高坂さん、鈴木さんに「新樹」の編集にかける意気込みをお聞きました。

なお、橋本さん、石田さん、法橋さんの3名は、引き続きご活躍いただきます。

◆初めて編集委員をやらせていただきます。「新樹」19号で取材を受け、初めて同誌を知り、関心を持ったのがきっかけです。お手伝いさせていただきながら勉強したいと思います。(高坂)

◆「新樹」の編集に携わらせていただき、多くの人々との出会い、新たな経験が出来ることに感謝しております。(鈴木)

<<20号のご意見・ご感想は男女共同参画室まで>>



鈴木さん

高坂さん

表紙・特集写真

- ・[1][2][6] 清里公民館 提供
- ・[4][5] 高崎歴史民俗資料館 協力
- ・[3][7][8][9] 群馬県立歴史博物館 提供

特集イラスト協力：深町 このみさん

参考文献

- ・『近代日本総合年表』第四版 岩波書店
- ・『昭和・平成家庭史年表』河出書房新社

発行日：平成20年10月1日 編集：「新樹」編集委員

発行：前橋市 いきいき生活課 男女共同参画室 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館2F

直通電話：027-898-6517 FAX：027-221-6200 メールアドレス：sankaku@city.maebashi.gunma.jp